

ACTIVO 通信

第 7 号 2019 年 7 月

ホンジュラス国金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト

- 貧困者比率が 6 割以上と言われる中米ホンジュラスにおいて、自立発展的な貧困削減を目指しています。
- 現地でのプロジェクト愛称は ACTIVO です。このため、当プロジェクトの進める貧困削減モデルを、ACTIVO モデルと呼びます。これは、スペイン語のスローガンである「より良い生活のための貯蓄、金融口座、労働及び収入 (Ahorro, Cuenta financiera, Trabajo e Ingreso para la Vida Optimizada)」の頭文字をとったものです。
- スペイン語の ACTIVO には、英語のアセット(資産)とアクティブ(活動的)の両方の意味があります。この ACTIVO モデルを使うことで、最貧困層が「活動的に資産形成すること」ができるようになり、結果、外的ショック(治安流動化、自然災害、流行病等)が発生した場合でも、これに耐えることができるようになります。これにより、最貧困層は、家計・生計を安定的に維持又は強化できるようになります。
- ACTIVO モデルでは、最貧困層の家計管理、金融利用、生計向上活動(生業ビジネス等)を総合的に強化します。

社会統合副省(SSIS)施策としての ACTIVO モデル普及展開

2019 年 7 月末までに、SSIS により、13 市の約 1 千世帯にモデル適用が開始されました!!

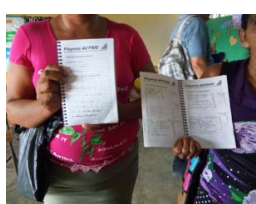
本プロジェクトの直接対象は 5 市のみです。しかし、2019 年 4 月以降、現地側実施機関の社会統合副省(SSIS)が、自らの施策として、他市にも、本プロジェクト提唱の貧困削減モデル(ACTIVO モデル)を普及するようになりました。その結果、対象 5 市の約 4 千世帯に加え、新たに SSIS が普及展開した約 1 千世帯も含めると、合計 5 千世帯以上において ACTIVO モデルが適用されたこととなります。

SSIS は、貧困削減施策である条件付き給付金制度(CCT 制度: 子弟の就学等を条件にして、最貧困層に補助金を提供するもの)の実施機関でもあります。SSIS は、CCT から卒業戦略の一環として、この ACTIVO モデルを政府施策として広めている訳です。具体的には、SSIS の人間開発普及部の指揮下、CCT 支給と総合的に、SSIS 普及員が CCT 受給世帯に対して家計管理や生業ビジネス活性化等に係る研修を行うようになりました。

これにより、今後、ホンジュラス各地で、貧困削減が進むものと期待されます。



フランシスコ・モラサン県サン・アントニオ・デ・オリエンテ市での家計管理啓発



サンタ・バルバラ県サンタ・リタ市で SSIS 普及員の指導で家計簿を作成した女性

第 2 次エンドライン調査の実施完了

ACTIVO モデル適用は、調査対象の最貧困層世帯収入に関し、約 4.4 万円プラスに影響!!

これまでの ACTIVO モデル参加世帯は、全国の約 30 市における 5 千世帯以上となります。パイロット地域を超えた取り組みとなったところ、このモデルの適用効果を改めて考察するため、2019 年 5~7 月に質問票調査を中心とする第 2 次エンドライン調査を行いました。この調査では、比較対象として ACTIVO モデル未参加の最貧困層世帯(CCT 受給世帯)にも質問票を適用し、実証分析のために回帰分析等を活用しました。

結果、ACTIVO モデルの適用は、1 世帯当たり、家計管理上の工夫実践数について、1.5 件程度プラスに影響していることが判明しました。世帯年収についても 9,794 レンピーラ(約 4.4 万)分のプラスの影響があることが分かりました(下図のモデル参加群と未参加群との比較参照)。ACTIVO モデルを 2 年間程度適用すれば、インプットの 10 倍以上の効果を得ることが可能になると言えそうです。

